

3. 地域基幹病院におけるAiの実際

田野原由華 / 峯重 正紀 JA山口厚生連周東総合病院放射線技術科

近年、オートプシー・イメージング(以下、Ai)が普及し、周東総合病院においても実施される事例が増加傾向にある。また、2015年10月から医療事故調査制度が施行されたことに伴い、Aiの重要性はさらに高まることが予想される。

当院は、山口県の東部に位置する二次救急病院である。山口県の人口は約141万人であり、二次医療圏は8つに分けられている。そのうち、人口約8万2000人の柳井保健医療圏において医療を提供する地域基幹病院として、Aiにどのように取り組んでいるのか、当院での現状について述べる。

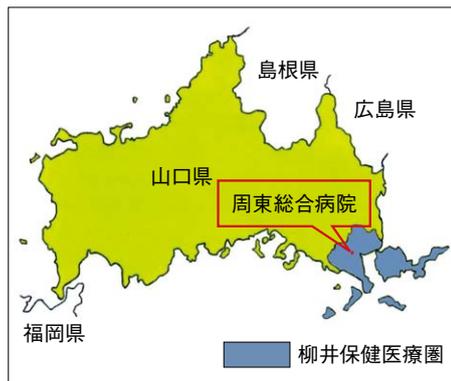


図1 当院と柳井医療圏



図2 白壁の町並み (a) と金魚ちょうちん (b)

周東総合病院について

当院は、山口県の東部にある柳井市に位置している(図1)。病床数360床、1日平均外来患者数699名、1日平均入院患者数305名、病床稼働率83~84%(2014年度実績)、常勤医師数は研修医を含む37名(2015年11月現在)である。この地域の医師不足は深刻な問題となっているが、質の高い医療の提供と、「親しまれ、信頼され、愛される」病院をめざすことを基本理念とし、活動している。

放射線科は、常勤医師1名、非常勤医師4名、診療放射線技師(以下、技師)14名、看護師1名、事務員・診療助手4名で構成される。検査機器としては、一般撮影装置4台、CT2台(64列、4列)、MRI1台(1.5T)、ガンマカメラ1台、放射線治療装置1台、血管撮影装置2台、X線TV装置2台、マンモグ

ラフィ装置1台、骨密度測定装置1台、移動型X線撮影装置3台などを保有している。Aiは、主に64列のCT装置において、通常検査の合間に行っている。

柳井市の特徴

当院が位置する柳井市は、瀬戸内海に面した温暖な気候の地域である。江戸時代の商家が建ち並ぶ「白壁の町並み」がよく知られており、多くの観光客が訪れている(図2)。それにちなんで、当院のライナック室入口には「白壁の町並み」が描かれている(図3)。白壁の建物の軒先には民芸品である「金魚ちょうちん」がぶら下がっており、8月に開催される「金魚ちょうちん祭り」の際には、約2000個のちょうちんに灯りがともされる。この祭りには、当院からも「金魚ねぶた」を出して練り歩くなどして参加している。

この柳井市を含む1市4町から成る柳井保健医療圏は、総人口(約8万2000人)に対する高齢者の割合が39.5%、後期高齢者の割合が21.5%(山口県庁HPより)であり、全国のそれぞれの割合である25.9%、12.5%(平成26年、総務省統計局調べ)と比較しても、かなり高齢化が進んだ地域であると言える。

当院におけるAiの現状

1. Aiの流れ

当院では現状、以下の場合においてAiが行われている。